

シンガポール日本人学校における総合的な学習の時間と実践

前シンガポール日本人学校中学部 教諭

新潟県五泉市立五泉中学校 教諭 波多野 公 恵

キーワード：総合的な学習の時間、国際理解、現地理解、修学旅行、シンガポール共和国

1. はじめに

はじめにシンガポールはマレー半島の最南端に位置する国であり、中国系やマレー系、インド系などの民族により構成される多民族・多言語国家である。

日本と違う文化が混ざり合ったこのシンガポールにおいて、シンガポール日本人学校中学部では、「国際理解」を中心に総合的な学習の時間に取り組んでいる。以下、その実践を紹介する。

2. シンガポール日本人学校中学部での取組

はじめに、中学校1年生では、「シンガポールを知る」というテーマのもと、シンガポールにあるいくつかの施設を訪れ、現地理解学習を行う。その後、中学校2年生では、近隣アジア諸国のタイについて調べ、実際に修学旅行で行くことでさらに理解を深める。

この活動から生徒はシンガポールと近隣アジア諸国について、実体験を通して様々なことを学んでいく。さらに中学校3年生では、日本とシンガポール、近隣アジア諸国を比較し、卒業研究に結びつけていくこととなる。

3. 実践例

(1) 中学校1年生の取組 (2010年度)

生徒達に現地シンガポールについて理解させるために「自然」「歴史」「文化」「生活」という4つの分野から取り組ませることとした。生徒が自分の目で、シンガポールをいろいろな視点で捉え、その上で調査、研究できるように活動名称を「Discover (発見) & Inquire (追究) ! Singapore」とした。

① 4分野の訪問先

<自然：ボタニックガーデン>

ボタニックガーデンは、世界有数の植物園であり、市内観光の有名スポットの1つになっている。この植物園は、イギリスの植民地時代の1859年、熱帯産の植物の栽培と研究を目的に設立されたものである。園内には、熱帯植物を代表とするばん根やしめ殺しの木がうっそうと生い茂り、国立蘭園や外来種もたくさんある。1学期に学習したマレーシアの油ヤシや天然記念樹もあること、落ちていた種は拾ってもよいこと、歴史ある建物や戦争時の歴史もあることから見学先に決定した。

また、日本語ガイドさんのお話から中学校独自の説明マニュアルを作成し、教師が説明できるように工夫した。



ボタニックガーデンで植物を観察する生徒

<歴史：フォード戦争博物館>

フォード戦争博物館は、フォード工場の跡地にできた歴史博物館である。ここでは、日本軍が太平洋戦争でシンガポールをイギリス軍より奪取した歴史を知ることができる。この場所は、日本軍の山下中将与英軍のパーシバル司令官が降伏文書を交わした場所であり、実際に使われた机や椅子が展示されており、当時の映像も見ることができる。また、戦争時に使った兵器や戦争の様子が写真などで展示されており、生徒にとって歴史について考える一助になった。

<文化：国立博物館>

国立博物館では、シンガポールの歴史や生活について、実際に使われていたものや資料を通して知ることができる。シンガポールの国ができるまでの歴史、戦争の歴史、現在の生活の様子を具体的に知ることができ、歴史ある建物についても知ることができる施設である。ここでは、日本語ガイドグループの協力を得て、生徒達にシンガポールの大まかな歴史や生活をつかませることができた。

<生活：現地校訪問>

現地校訪問は「現地の生徒と接したことはあるが、どんな学校生活を送っているのかわからない」と言った生徒との会話の中から考えた行き先である。現地校訪問は、シンガポールに生活しているから行ける場所、生徒がこの総合の時間を通してでしか行けない場所であると思う。現地の学校生活を知り、人と触れ合えるこの訪問こそが、生徒の生きる力につながると考え、学校訪問を計画した。

②現地校訪問について

現地校については、訪問交渉をしたところ、どの学校も気持ちよく受け入れてくれた。現地校訪問では、次の3つを行うこととした。

(ア)「スクールツアー（学食や体育館、教室などの施設見学）」

(イ)「ゲーム（現地の遊びを通して交流）」

(ウ)「インタビューセッション（英語で、学校生活についてインタビュー活動）」

訪問当日は、どの学校でも日本にはないキャンティーンなどの施設を見学させてくれたり、伝統的な遊び（ファイブストーン、パズル）を教えてくれたり、シンガポールの文化を熱心に教えてくれた。インタビュー活動では、英語でコミュニケーションをとることの大切さや現地校の生徒の考えなどを知ることができたと思う。また、生徒の感想からは、「実際に訪問することにより、さらに深く学びたい、感謝する気持ちが生まれた」などという意見があり、現地の人と積極的に関わりたいという気持ちが出てきた。

③個人研究

これら施設の訪問を終えた3学期には、自分が興味をもつ分野を深めるために、シンガポール国内にある施設を再度見学させた。

見学先に選んだのは、シンガポール教育省が小中学生向けに紹介している施設である。施設では、展示物の説明がされているだけでなく、実際に触れてみたり、推測したり、絵を描いたり、子どもたちが主体的に学べるように工夫されている。シンガポール教育省では、各施設で生徒が有効に学ぶことができるように、プログラムを組んでいるのである。日本人学校での総合学習の時間でもそのリストを参考にしながら、リストから10の施設を生徒に提示し、選択させた。

訪問後は、わかったことや考えたことを各自がパワーポイントを利用し、まとめた。まとめたものは校内10会場にわかれ、発表を行い、さらにシンガポールについての理解を深めた。

1年の終わりには、シンガポールを好きになっている生徒が増えてきた。

(2) 中学校2年生の取組 (2011年度)

1年次のスキルがいかせるカリキュラムを組んだ。中学校1年生では、シンガポールについて4つの分野「自然」「歴史」「文化」「生活」に分けたが、中学校2年生では、さらに発展させて、6つの分野から調べ学習を行えるようにした。

①事前学習

<1学期> タイについて「文化」「生活(食事)」「教育」「自然」「歴史」「タイの基本情報」について6つの分野を班員に割り振り、生徒各自がテーマを設定した。大東亜戦争やタイ舞踊、ムエタイなどについてテーマに基づき、各自がレポートとしてまとめた。その後、調べた内容は、班で1つのタイ新聞(壁新聞)としてまとめた。

<2学期> シンガポール日本人の折り紙同好会や民謡同好会、和太鼓同好会の協力を得て、日本文化を習得した。ここで学んだことは、タイで学校交流する際に自国の文化を発信することとした。生徒達は、真剣に取り組み、教えてくださる方々との交流からも人としての温かさなどを学ぶことができた。

<3学期> 現地で、タイ語のあいさつがコミュニケーションの1つとなるように簡単なタイ語を学ばせた。市販のCDを使い、「日常のあいさつ」「ありがとう」「すみません」などの言葉を教えた。また、合唱をタイ語で披露しようと合唱曲にも取り組んだ。

②タイ(チェンマイ)での体験学習について(2012年2月 修学旅行1・2日目)

修学旅行では、7つの体験学習を用意した。「ムエタイ」「セパタクロ」「タイ料理」「お坊さん体験」「タイマッサージ」「タイ舞踊」「歴史散策」である。

当日は、1学期の事前学習をもとに、現地で実際に体験することで、学習を深めることができた。また、その他に「自然」「歴史」「文化」体験として、寺院見学やアジア象のエレファントライドを生徒は体験した。

③現地校訪問について(2012年2月 修学旅行3日目)

現地校訪問については次の2つを行うこととした。

(ア)「スクールツアー(学食や体育館、教室などの施設見学)」

(イ)「文化交流(互いの文化を教え合う)」

この場面において、生徒は英語を使って交流しながら、シンガポールとタイの違いについても学んでいくことができると考えたからである。

当日の「スクールツアー」は、現地校生徒が宝探しというゲームをしながら、校内を案内してくれた。「文化交流」では、日本人学校中学部からは、民謡と折り紙、合唱発表、和太鼓披露、タイの学校からはタイ舞踊披露を行ってくれた。合唱では、生徒は自国の文化を教えようと一生懸命に歌っていた姿が印象的である。生徒アンケート(学校交流を通し、自国の文化や伝統の発信者としての役割を担う-肯定的評価84%)より、学校交流の目的が果たせたとと言えるであろう。

④事後のまとめ

修学旅行後、旅行での体験をもとに、A3の用紙に各自が個人新聞を作成した。総合的な学習の時間では、調べ学習、レポート作成といった学習スキルの他に、タイ新聞を班で書くことにより、仲間との協力、修学旅行で集団としてのまとまりについても学ぶことができたと思う。



修学旅行先でムエタイを体験する生徒

(3) 中学校3年生の取組

これまで2年間の学校生活や総合的な学習を振り返り、自分の興味ある分野をしぼっていく。分野がしぼられ、テーマを決定した後は、1、2年生で得た調べ方やまとめ方のスキルをいかし、時には、現地調査やアンケートを行いながら個人で研究を進めていく。研究した成果は、校内発表等で発信していく予定である。

4. 総合的な学習の時間の推進

総合的な学習の時間を進める上で必要なことは、生徒に身につけたい力を教員で共有し、先行して現地環境を調査することであった。現地校における教育カリキュラムや取組を調べたり、年中行事について調べたり、日本との違いを探ることによって、シンガポールについて私自身も知ることができたと思う。シンガポールの歴史や政治、生活環境など様々なことを学ぶことができた。それと同時に日本のよさも感じ、改めて日本を見直すことができた。

以上のことから現地を知ることは、日本人学校の生徒の学習を深める上でも非常に有効なことだと感じている。教員自らが現地に対する理解を深めることで、生徒に還元できることも多くあるはずである。また、総合的な学習を進める上で生徒と会話した際に、有名な観光場所には行っているものの現地のお祭りや行事などに参加している生徒は少ないことがわかった。現地の環境を生かし、日本人学校の生徒が学んでいくことはまだまだたくさんある。

5. おわりに

毎時間の総合的な学習の時間を生徒達は、とても楽しみにしてくれた。小学校でもシンガポールの社会見学をしているが、中学校では、シンガポールについて得た知識を個人研究にまで結びつけ、考えたことを発信できるようにさせる。1年次の発表では、どの生徒もいきいきとした表情で発表することができた。2年次の修学旅行では、自国の文化の発信者としての役割を担い、友人と協力しながら、タイ（チェンマイ）の文化を肌で感じることもできた。

この総合的な学習の時間で培われる現地環境や現地の方に積極的に関わっていく態度は、これから国際社会を生き抜いていく上で、必要な要素となるであろう。これらの経験が生徒の生きる力になることを切に願っている。